



長崎県立高等学校教育改革 第 1 1 次 実 施 計 画



令和 8 年 6 月 1 9 日

長崎県教育委員会

目 次

長崎県立高等学校教育改革第Ⅰ次実施計画の策定について	1
《1》商業に関する専門学科「ツーリズムデザイン科」の設置	2
《2》新たな連携型中高一貫教育の導入	3

長崎県立高等学校教育改革第11次実施計画の策定について

長崎県教育委員会は「変化の激しい社会において自立的に生き、社会の形成に参画する力」や「ふるさと長崎への愛着と誇りを持ち、本県の未来を担う力」の育成を担う県立高等学校の魅力化を推進するため、今後の教育改革や適正配置等に関する基本的な考え方を示す「第三期長崎県立高等学校改革基本方針」（計画期間：令和3年度から令和12年度。以下「第三期基本方針」という。）を令和2年3月に策定した。

「第三期基本方針」においては、社会構造や産業構造の急速な変化を踏まえ、社会の変化に対応した教育制度等の改革の一環として、地域の人材や企業等を活用した教育活動を実施することにより、地域に根ざした学びの充実を推進することとしている。また、設置者が異なる中学校と高等学校が連携・協力することにより、小規模な高等学校においても、生徒の多様な学習ニーズへの対応が可能となることが示されている。

令和8年2月に国が策定した「高校教育改革に関する基本方針」においては生産年齢人口の減少や産業構造の転換など予測困難な社会の変化に的確に対応するため、高等学校が初等中等教育段階の最終段階の教育機関として多様な人々と協働しつつ様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手を育成することの重要性が示されている。とりわけ専門高校においては、地域産業や社会が抱える課題の解決に資する人材の育成を目指し、産業界や大学等と連携・協働の下、理論と実践の往還を通じて実践的な能力の習得及び向上を図るカリキュラムの実施等に取り組むことが求められている。

今回策定した「長崎県立高等学校教育改革第11次実施計画」（以下「第11次実施計画」という。）は、地域の産業や文化、観光資源等を生かし実社会と結び付いた探究的・実践的な学びを通して地域の未来を構想し、形にしていく力を育成する新たな専門学科の設置や、小規模校であっても質の高い教育を持続的に提供するための連携型中高一貫教育の導入を目的として具体的な施策を取りまとめたものである。

今後、県教育委員会及び関係高等学校において、本実施計画を着実に推進するとともに、地域や関係機関との連携・協働を一層深化させながら、生徒一人ひとりが自らの可能性を最大限に伸ばし、ふるさと長崎及び地域社会の持続的な発展を担う人材へと成長できる教育環境の整備に努めていくものとする。

《Ⅰ》商業科に関する専門学科「ツーリズムデザイン科」の設置

波佐見高等学校は、波佐見焼をはじめとする世界に誇る伝統産業や、多様で魅力ある観光資源に恵まれた波佐見町に立地しており、若手経営者も多い活力ある地域環境の下、普通科、商業科、美術・工芸科の3学科において、これまで地域と連携した教育活動を展開してきた。

一方、社会においては生成 AI の実装をはじめとするデジタル技術の急速な進展や産業構造・社会システムの変化により先行き不透明で変化の激しい時代に突入している。特に、経理や事務作業など定型的な業務分野ではデジタル技術の活用が一層進むことが見込まれており、これからの商業教育においては、発想力や創造力を基盤に、他者と協働しながら新たな技術を適切に活用し、社会や地域に新たな価値を創出する力の育成が重要となっている。

こうした状況を踏まえ、波佐見高等学校商業科においては、これまでの商業教育において培ってきた基礎的・専門的な学びを基盤としつつ「社会に開かれた教育課程」の理念の下、地域そのものを学びのフィールドとした探究的・実践的な学びを一層充実させることにより、企画力や課題解決能力、実践的なビジネススキルの育成を重視した教育へと転換を図るため、「ツーリズムデザイン科」を設置する。

「ツーリズムデザイン科」は、観光ビジネスに関する学びを入口として、地域住民、文化、産業等との多様な関わりを通じ、地域の価値創出について体系的に学ぶ学科である。

本学科においては観光分野に関する学習にとどまらず、地域と深く結びついた実践的な地域学とビジネス分野の学びを融合させ、デザイン思考（顧客志向）に基づき地域資源の価値を見だし、ビジネスとして構想・設計する創造力（アントレプレナーシップ）を育成するとともに、新しい時代における地域の在り方を主体的にデザインできる力の育成を目指すものとする。

この取組を推進するにあたっては、企業、大学、波佐見町、地元関係機関と連携し、産学官が一体となったコンソーシアムを構築するとともに地域が有する多様な教育資源を最大限に活用することにより、生徒が実社会と接続した探究的・実践的な学びを通して挑戦と成長を重ねることができる商業教育の展開を図るものとする。

《学科改編する高等学校》 波佐見高等学校・・・令和9年度

普通科Ⅰ学級、 商業科Ⅰ学級、 美術・工芸科Ⅰ学級



普通科Ⅰ学級、 ツーリズムデザイン科Ⅰ学級、 美術・工芸科Ⅰ学級

《2》新たな連携型中高一貫教育の導入

連携型中高一貫教育は、中高の合同行事や合同部活動、教員の相互乗り入れ授業、6年間を見通したカリキュラム編成などにより、小規模校であっても高い教育成果が期待される。

中五島高等学校が所在する新上五島町では、幼児期から高等学校まで一貫した「ふるさと教育」を推進するため、令和6年度にその指針を策定し小学校から高等学校までのふるさと教育担当教諭による情報交換会の開催や高等学校と小・中学校が連携した合同探究学習に取り組んでいる。また、中五島高等学校では、平成27年度より地域課題解決型学習「パブリックワーク」を実施しており、地域を学びのフィールドとし、行政や関係団体等と連携しながら、地域課題の解決や地域の魅力発信に取り組んでいる。生徒はこの活動を通して、課題発見力や協働性、社会参画意識を高めるとともに将来の地域社会を担うための資質・能力を育成している。

中五島高等学校において連携型中高一貫教育を導入することにより、同校が実施する「パブリックワーク」と新上五島町の「ふるさと教育」を効果的に融合させることが可能となる。これにより、中学校段階では地域に対する課題意識をより一層育成し、高等学校段階では具体的な課題解決に取り組むことができ、こうした系統的な学びを通して、卒業後も地元に貢献したいという意識の醸成も期待される。

連携する中学校については、新上五島町立若松中学校を対象とし、中五島高等学校の敷地内に新たに設置する予定である。これにより、連携型中高一貫教育としては同居型の形態となり、中学校段階から高等学校と連続した教育活動を展開することが可能となることから、より高い教育効果が期待できる。

<p>【導入する高等学校】 中五島高等学校…令和11年度 連携する中学校：新上五島町立若松中学校</p>
--

長崎県立高等学校教育改革第ⅠⅠ次実施計画

長崎県教育庁 高校教育課 ながさき次世代高校創生室

〒850-8570 長崎市尾上町3-1

TEL 095-894-3356 FAX 095-824-5965

WEB <https://www.pref.nagasaki.jp/doc/page-692884.html>